



平成27年度
福岡県学力調査
調査結果報告書

国語

算数
数学



平成27年12月
福岡県教育委員会

平成27年度福岡県学力調査
(国語、算数・数学)
調査結果報告書

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の対象学年	1
3	調査の教科	1
4	調査の内容	1
5	調査日	1
6	6月23日に調査を実施した学校・児童生徒数	2
7	調査問題の内容	2
II	調査結果の概要	3
1	調査結果概況	3
2	全体の状況	3
3	主として「基礎」に関する問題の状況	3
4	主として「活用」に関する問題の状況	3
5	地区別（教育事務所別）の状況	4
III	各教科調査結果	5
1	小学校国語	5
2	小学校算数	8
3	中学校国語	11
4	中学校数学	14

平成27年度 福岡県学力調査 (国語、算数・数学) 調査結果報告書

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各市町村（学校組合）教育委員会（以下「市町村教育委員会」という。）、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- 各学校が、各児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年（政令市を除く）

公立の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年

公立の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

※ 当該学年における当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

3 調査の教科

- 小学校、特別支援学校小学部第5学年 国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校、中等教育学校、特別支援学校中学部第2学年 国語、数学（1教科50分で実施）

4 調査の内容

主として「基礎」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

5 調査日

平成27年6月23日（火）

6 6月23日に調査を実施した学校・児童生徒数

小学校	学校数		調査を受けた児童数	
	対象学校数	実施校数	国語	算数
	464	464	22,930	22,941
中学校 ・ 中等教育学校	学校数		調査を受けた生徒数	
	対象学校数	実施校数	国語	数学
	207	207	22,854	22,865

※学校数は、分校を含む

7 調査問題の内容

- 調査範囲等
 - ・ 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
 - ・ 各教科の問題は、原則として、主として「基礎」に関する問題及び、主として「活用」に関する問題とする。詳しい問題数は下表のとおりである。

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
主として「基礎」に関する問題	12	14	15	17
主として「活用」に関する問題	7	7	6	6
問題数合計	19	21	21	23

- 設問（解答）形式

「選択式」、「短答式」及び「記述式」の3形式とする。

 - * 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。
選択肢は想定される誤答傾向に基づいて設定する。
 - * 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。
 - * 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
選択式	7	7	9	9
短答式	9	11	8	11
記述式	3	3	4	3

II 調査結果の概要

1 調査結果概況

	小学校						中学校					
	国語			算数			国語			数学		
	全体	基礎	活用									
期待正答率	64.7	70.1	55.4	67.3	76.2	49.6	76.7	79.6	69.5	58.5	64.4	41.8
平均正答率	60.2	64.4	53.0	65.7	76.8	43.6	67.4	69.9	61.0	54.6	59.9	39.3
差	-4.5	-5.7	-2.4	-1.6	0.6	-6.0	-9.3	-9.7	-8.5	-3.9	-4.5	-2.5

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

期待正答率：学習指導要領に示された内容を、標準的な時間をかけて学習した場合、正答できることが期待される児童生徒の割合を想定したもの（全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を参考として算出）。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値の百分率のこと。

2 全体の状況

- 小学校は、算数の「基礎」に関する問題以外は期待正答率を下回っている。
- 中学校は、「全体」及び「基礎」に関する問題、「活用」に関する問題の全てにおいて期待正答率を下回っている。
- 小学校の算数を除いた全ての教科において、「基礎」に関する問題の方が「活用」に関する問題よりも期待正答率との差が大きい。

3 主として「基礎」に関する問題の状況

- 小学校の算数では、平均正答率が期待正答率を0.6ポイント上回っている。
- 中学校の方が、小学校よりも期待正答率との差が大きくなっている。

4 主として「活用」に関する問題の状況

- 「活用」に関する問題の平均正答率は、全ての教科で「基礎」に関する問題の平均正答率を下回っている。
- 期待正答率と平均正答率との差の最大は、小学校では算数で6.0ポイント、中学校では国語で8.5ポイントとなっている。

※ 本調査では、全国学力・学習状況調査と異なり、1単位時間の調査で「基礎」に関する問題と「活用」に関する問題を約7：3の割合で実施している。

このことから、2～4のように分析しているものの、「基礎」及び「活用」に関する問題の正答率を単純に比較することは必ずしも適当ではない。

5 地区別（教育事務所別）の状況

県内を教育事務所ごとの6つの地区に分けて分析した。

■ 平均正答率の状況

- 福岡地区の小学校算数の「全体」及び「基礎」に関する問題、中学校数学の「活用」、南筑後地区の小学校算数の「基礎」に関する問題は、期待正答率を上回っている。
- 地区間の最大最小の差は、国語よりも算数、数学の方が大きくなっている。
- 小学校、中学校ともに、「基礎」に関する問題より「活用」に関する問題の方が地区間の差が大きくなっている。
- 小学校では、算数の「活用」に関する問題において、地区間の差が最も大きく、その値は9.4ポイントとなっている。また、中学校では、数学の「活用」に関する問題において、地区間の差が最も大きく、その値は11.2ポイントとなっている。
- 中学校数学は「全体」、「基礎」及び「活用」に関する問題全てにおいて、地区間の差が10ポイント以上ある。

【各教育事務所別の平均正答率】

	小学校						中学校					
	国語			算数			国語			数学		
	全体	基礎	活用									
期待正答率	64.7	70.1	55.4	67.3	76.2	49.6	76.7	79.6	69.5	58.5	64.4	41.8
県全体 (政令市を除く)	60.2	64.4	53.0	65.7	76.8	43.6	67.4	69.9	61.0	54.6	59.9	39.3
福岡	62.1	66.1	55.2	68.5	79.2	47.0	70.1	72.7	63.9	58.0	63.3	42.9
北九州	57.8	62.3	50.1	61.7	72.7	39.7	64.6	67.6	57.1	50.1	55.8	34.0
北筑後	59.3	63.2	52.6	64.6	76.0	41.8	67.0	69.4	61.1	53.9	59.2	38.7
南筑後	61.0	65.5	53.2	66.4	77.5	44.3	65.7	68.3	59.1	53.9	59.3	38.7
筑豊	56.3	61.1	48.2	60.4	71.7	37.6	61.6	64.2	55.1	47.5	53.0	31.7
京築	58.8	63.1	51.5	64.1	75.6	41.0	64.9	67.5	58.5	50.3	55.6	35.2
最大最小の差	5.8	5.0	7.0	8.1	7.5	9.4	8.5	8.5	8.8	10.5	10.3	11.2

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 標準偏差の状況

地区間の教科全体の平均正答率のばらつきについて「標準偏差」をもとに分析した。

- 標準偏差は、小学校よりも中学校の方が大きくなっている。
- 標準偏差は、小学校、中学校ともに、国語よりも算数・数学の方が大きくなっている。

【6教育事務所間の標準偏差】

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
標準偏差	2.1	3.0	2.8	3.7

III 各教科調査結果

1 小学校国語

- 教科全体では、期待正答率 64.7%に対して平均正答率 60.2%であり、4.5 ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」では期待正答率を 5.7 ポイント下回り、「活用」では期待正答率を 2.4 ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」のすべてにおいて、期待正答率をそれぞれ 7.4 ポイント、0.8 ポイント、3.4 ポイント、5.7 ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「記述式」では、期待正答率を 3.1 ポイント上回っている。しかし、「選択式」及び「短答式」では、期待正答率をそれぞれ 13.3 ポイント、0.2 ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「書くこと」では、期待正答率を 1.6 ポイント上回っている。また、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、期待正答率をそれぞれ 7.4 ポイント、8.6 ポイント、5.7 ポイント下回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	64.7	70.1	55.4	70.0	40.3	56.9	73.3	70.7	71.1	31.3
平均正答率	60.2	64.4	53.0	62.6	39.5	53.5	67.6	57.4	70.9	34.4
差	-4.5	-5.7	-2.4	-7.4	-0.8	-3.4	-5.7	-13.3	-0.2	3.1

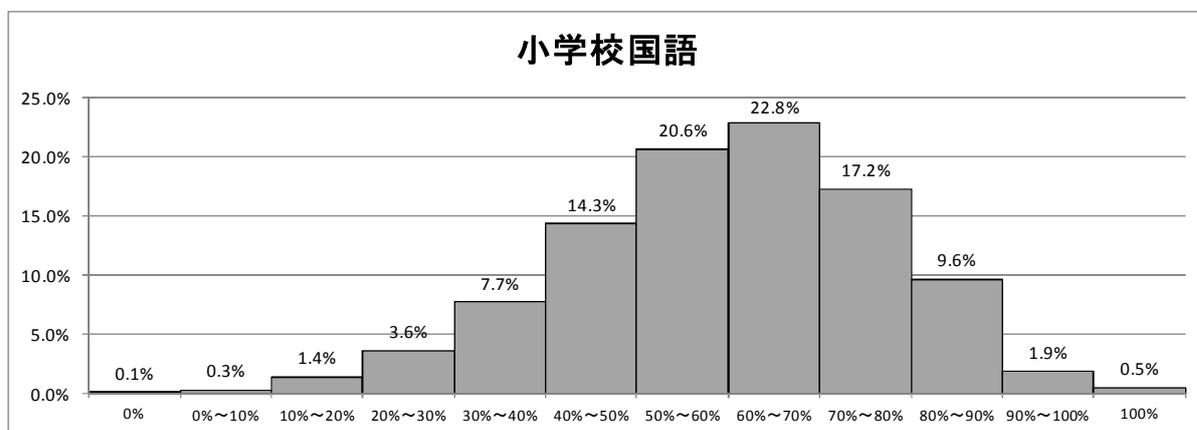
※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	70.0	43.8	70.0	73.3
平均正答率	62.6	45.4	61.4	67.6
差	-7.4	1.6	-8.6	-5.7

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：児童の割合（％）



■ 小学校国語 問題内容と類型番号（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	出題のねらい	正答率	期待 正答率	類型番号(選択肢番号)別出現率							
							1	2	3	4	5	難問特異	無解答	
1	1	-	1	第四学年配当漢字を読むことができる。	99.0	95.0	99.0	0.0	0.2			0.4	0.4	
2			2		81.9	87.0	81.9	0.4	11.2			3.1	3.4	
3			3		92.3	85.0	92.3					6.5	1.3	
4		二	1		第四学年配当漢字を書くことができる。	82.6	75.0	82.6	2.7	7.9			3.3	3.5
5			2			75.3	70.0	75.3	6.3	8.6			5.7	4.0
6			3			73.8	80.0	73.8					19.7	6.5
7	2	-	ことわざの意味を理解することができる。	50.0		71.0	31.9	11.0	6.7	50.0		0.1	0.3	
8		二	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することができる。	43.8		74.0	13.3	41.5	43.8			0.9	0.4	
9		三	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。	9.9		23.0	9.9					76.3	13.8	
10	3	-	登場人物の様子について、表現の工夫に注目して読み取ることができる。	32.1	58.0	26.8	32.1	15.6	24.3		0.1	1.1		
11		二	登場人物の心情を読み取ることができる。	80.1	63.0	13.3	1.9	3.7	80.1		0.1	1.0		
12		三	登場人物の様子について、行動の理由を読み取って、その内容を書くことができる。	52.3	60.0	52.3					35.8	11.9		
13	4	-	目的や意図に応じて、与えられた情報を対照し、共通する適切な見出し語を選ぶことができる。	89.3	93.0	3.1	2.0	89.3	4.5		0.6	0.6		
14		二	与えられた情報を対照し、片方のみ掲載されている情報を読み取って、その項目を書くことができる。	71.5	65.0	71.5					22.8	5.7		
15		三	話し手の発言を受け止め、話し合いの方向を整理し、計画的に話し合うことができる。	62.6	70.0	9.5	62.6	20.8	5.8		0.2	1.2		
16		四	話し合いの内容をまとめて、与えられた情報の中から、場面や状況に合う適切な選別を行うと同時に、その理由を説明することができる。	40.6	40.0	8.0	12.9	19.7	0.0	0.0	52.9	6.4		
17	5	-	さらに調べたいと思ったことへの答えになる情報を、資料の中から選ぶことができる。	44.3	66.0	1.8	44.3	25.1	17.3		4.9	6.7		
18		二	A	メモと資料の内容を的確に読み取って関連付けながら、下田さんのまとめを書くことができる。	26.5	27.0	26.5	0.1	16.9	10.0		28.5	18.0	
19		B			36.2	27.0	19.9	16.3	0.6		37.9	25.3		

■ 小学校国語 指導改善のポイント

視点1 必要な情報を適切に取り出し、関係付けて書く学習の充実

問題 4四

お知らせを貼る場所について、
〈条件〉に合わせて書きましょう。

〈条件〉

① 【候補】の中から一つ選ぶ
② 【話し合いの様子】と【候補】の
特ちょうの両方の内容から理由を
書く
③ 75字以上105字以内で書く

【候補】 【話し合いの様子】

児童会室の前

特ちょう

- ・小田さんは、児童会室の前、後や、赤いしきつをいし。
- ・ふつうの教室の前のよう、下より、少し高い。

平山 小松 北野 平山 小松

「では、Bを各教室
質問があります。」

「でも、Aは、くわ
Aのほうを読みや
どちらを教室には

しょうこう口

特ちょう

- ・小田さんから、全校児童が
知る。
- ・お話し合いの人が関に連
る感がある。

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 40.6% [期待正答率 40.0%]
※期待正答率との差 Δ0.6ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、〈条件〉を十分に満たしてい
ない(①又は③を満たしていない解答並びに①及び③を
満たしているが②を満たしていない解答)ものがあり、反
応率は52.9%である。資料から必要な情報を適切に
取り出し、それらを関係付け、条件にしたがって書くこと
に課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
27	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	34.5%	34.7%

【指導のポイント】

◎ 目的や意図に応じ、取材した複数の内容を整理して書くことができるようにする

- ・ 資料を正確に読み取り、必要な情報を取り出す指導の充実
- ・ 取り出した情報同士を関係付け、詳しく書いたり、簡単に書いたりする指導の充実

1・2年: つながりのある
文・文章

3・4年: 目的や必要に応
じた理由・事例

5・6年: 目的や意図に応
じた詳叙・略叙

視点2 調べ学習に関連する本や文章を効果的に読む学習の充実

問題 5-1

【メモ】でさらに調べたいと思ったことへの答えは、【資料】のどの段落を読めばわかりますか。

【資料】

【動物に鏡を見せるとどうなるの?】

① こんな童話を知っていますか。「犬が肉をくわえて橋をわたっている。橋の下にも、向きくわえた犬がいた。犬が肉をうばおうとほえたら、肉を用いて落としてしまった。下にいた犬は、用にとつた自分だった——」

② 鏡にとつているのが自分のすがただとわかるには、高い知能が必要です。人間のほかには、チンパンジーやイルカなど、脳の発達している動物しかわからないと考えられています。ふつう、ほとんどの動物は鏡を見ると、童話の犬と同じように、ほかの犬だかいると思うのです。

③ ただし、チンパンジーやイルカなども、初めて鏡を見たときは、自分がうつっているとは思わないようです。たとえば、チンパンジーは動物 鏡にとつた自分をほかのチンパンジーだと思い、あいさつをしたそうです。自分だとわかるには、時間がかかるのです。

【メモ】

さらに調べたいこと
イルカは、鏡にとつた自分がわかるほど頭が良
い。「鏡にとつた自分」の関係を、さらに調べたい。」

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 44.3% [期待正答率 66.0%]
※期待正答率との差 ▼21.7ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、段落③（鏡にとつた自分がわかる他の動物の具体例）を選んだものがあり、反応率は25.1%である。複数の資料のそれぞれの内容を正確に読み取り、それらを関係付けることに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
26	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む	65.3%	66.0%

【指導のポイント】

◎ 複数の資料を関係付け、自分の考えを深めながら読むことができるようにする

- ・ 文や語句の書き抜き、要約、引用によって必要な情報を取り出す指導の充実
- ・ 取り出した情報を、付箋やメモなどを活用し構造化して整理する指導の充実

1・2年: 時間的順序・事柄の順序、内容の大体

3・4年: 中心となる語や文、段落相互の関係

5・6年: 効果的な読み方、要旨・自分の考え

視点3 適切な接続語を使い、内容を分けて書く学習の充実

問題 2-3

【文章の一部】の——線部を、主語に注目し、「だから」を使って2つの内容に分けて書き直しましょう。

くは、その期待にこたえたいと思う。ぼくは、地いきのサッカークラブに入っている。先週、ぼくは、クラブの新しいキャプテンに選ばれた。クラブのみんが、キャプテンを任せるとも安心だと言ってくれたので、ぼくは、その期待にこたえたいと思う。

【文章の一部】

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 9.9% [期待正答率 23.0%]
※期待正答率との差 ▼13.1ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、書き抜きを間違えたり、言い換えたりしているもの(一文目「安心だと言った」、二文目「ぼくは、期待に」等)があり、反応率は76.3%である。複数の内容を含む文について、主語と述語との関係や接続語の役割を押さえながら文を分析的に捉えることに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
25	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	22.4%	23.4%

【指導のポイント】

◎ 文の定義を理解し、構成に注意して書くことができるようにする

- ・ 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係などに着目しながら、文の構成を整える指導の充実
- ・ 適切な接続語を使って、文と文との意味のつながりに注意する指導の充実

1・2年: 主語と述語

3・4年: 修飾と被修飾、指示語や接続語

5・6年: 文や文章の構成

2 小学校算数

- 教科全体では、期待正答率 67.3%に対して平均正答率 65.7%であり、1.6ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」では期待正答率を 0.6ポイント上回り、「活用」では期待正答率を 6.0ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「数学的な考え方」及び「知識・理解」では、期待正答率をそれぞれ0.1ポイント、1.2ポイント上回っている。しかし、「技能」では、期待正答率を 4.4ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」では期待正答率を 2.2ポイント上回っている。しかし、「短答式」及び「記述式」では、期待正答率をそれぞれ 3.8ポイント、2.3ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「数と計算」、「量と測定」領域では、期待正答率をそれぞれ 3.8ポイント、0.6ポイント上回っている。しかし、「図形」、「数量関係」領域では期待正答率をそれぞれ 4.0ポイント、8.5ポイント下回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	数学的な考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	67.3	76.2	49.6	46.3	70.0	75.6	71.1	72.5	39.3
平均正答率	65.7	76.8	43.6	46.4	65.6	76.8	73.3	68.7	37.0
差	-1.6	0.6	-6.0	0.1	-4.4	1.2	2.2	-3.8	-2.3

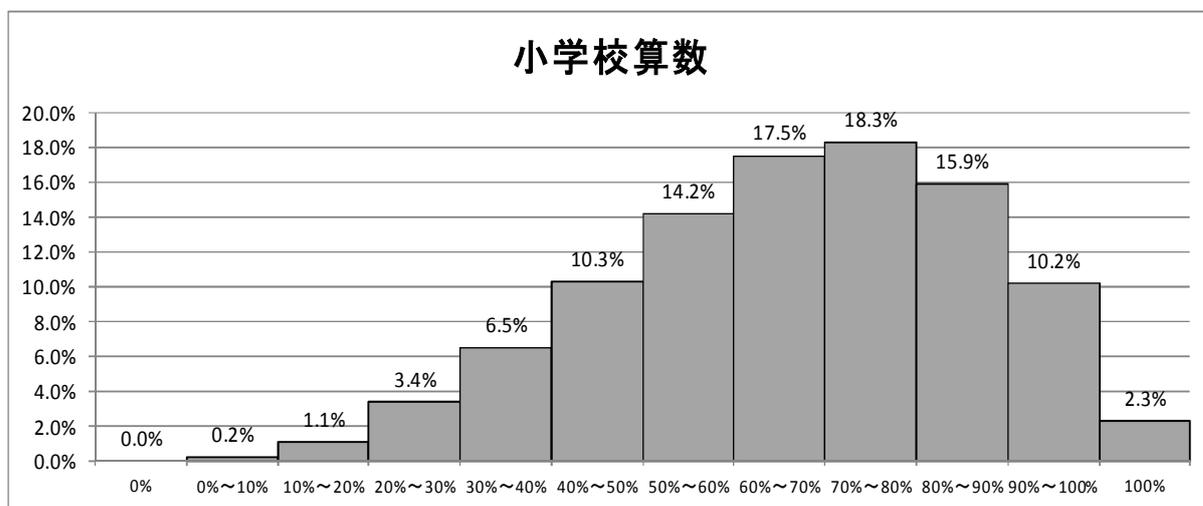
※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係
期待正答率	73.1	66.7	67.3	60.0
平均正答率	76.9	67.3	63.3	51.5
差	3.8	0.6	-4.0	-8.5

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合 (%)



■ 小学校算数 問題内容と類型番号（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	出題のねらい	正答率	期待 正答率	類型番号(選択肢番号)別出現率						
						1	2	3	4	類型外解答	無解答	
1	1	(1)	3けた+2けた(波及の繰り上がりあり)の計算ができる。	95.0	95.0	95.0					4.9	0.0
2		(2)	2けた÷1けた=1けた(余りなし)の計算ができる。	98.2	95.0	98.2					1.6	0.2
3		(3)	1/10の位までの小数-1/100の位までの小数(純小数)の計算ができる。	60.2	63.0	60.2	15.5				23.7	0.6
4		(4)	計算のきまりを使って、四則混合の計算ができる。	69.5	81.0	69.5	25.1				5.2	0.2
5	2		整数、仮分数、帯分数の大きさを比べることができる。	73.6	56.0	73.6					26.1	0.3
6	3	(1)	比較量と割合を基に、基準量を求める場面の図を選ぶことができる。	91.1	88.0	91.1	4.0	2.4	2.0	0.3	0.2	
7		(2)	比較量と割合を基に、基準量を求める式を選ぶことができる。	81.0	82.0	0.6	1.2	16.8	81.0	0.3	0.2	
8	4	(1)	身近にあるものの面積のおよその見当をつけることができる。	63.4	61.0	25.9	63.4	8.8	1.4	0.2	0.3	
9		(2)	分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ることができる。	86.0	79.0	86.0	8.0	2.3	1.3	2.3	0.2	
10	5	(1)	直方体の面と辺の位置関係を理解している。	70.5	65.0	9.5	70.5	12.3	6.9	0.3	0.5	
11		(2)	直方体の展開図を理解している。	85.1	88.0	2.8	6.3	5.4	85.1	0.1	0.3	
12	6		長方形とその対角線、直角三角形について理解している。	59.4	64.0	59.4					35.1	5.5
13	7		計算のきまりを理解し、式に合った問題場面を選ぶことができる。	87.5	81.0	5.2	87.5	3.7	3.2	0.1	0.3	
14	8		資料を分類・整理し、二次元表を用いて表すことができる。	54.3	69.0	54.3	14.4	9.7		18.9	2.7	
15	9	(1)	地図から解決に必要な長方形の縦と横の長さを見だし、面積を求めることができる。	52.7	60.0	52.7					44.6	2.7
16		(2)	地図から平行四辺形を見だし、示された道のりを求めるために利用した平行四辺形の特徴を説明することができる。	38.0	52.0	27.1	10.9				49.9	12.1
17	10	(1)	示されたきまりを基に、三辺の長さの和を求め、その数が含まれる範囲を考えて表を読むことができる。	74.5	67.0	74.5					23.6	1.9
18		(2)	条件に対応して表を読み、けんに送る荷物の料金や合計の料金を求めるとともに、その求め方を説明することができる。	42.1	39.0	39.3	0.3	2.5	0.0	53.8	4.1	
19	11	(1)	棒グラフを読み取ることができる。	32.3	69.0	32.3					64.6	3.1
20		(2)	棒グラフから重さの変化を読み取り、大小を判断することができる。	34.5	33.0	34.5	46.4	16.0		0.2	2.9	
21		(3)	折れ線グラフと棒グラフを比べて、読み取った数量の違いから、2つのグラフが対応していないことを読み取り、同じクラスのものではないことを説明することができる。	30.9	27.0	24.5	6.4			55.4	13.6	

■ 小学校算数 指導改善のポイント

視点1 図形の知識及び技能を活用して事柄を判断したり、表現したりする学習の充実

問題 9(2)
ひろみさんの家から図書館までの道のりが500mになることは、平行四辺形の特ちょうを使うと説明できます。しゅんさんが道のりを求めるときに使った平行四辺形の特ちょうを説明しましょう。

・道路ア、イ、ウは平行です。
・道路オ、カは平行です。

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 38.0% [期待正答率 52.0%]
※期待正答率との差 ▼14.0ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、向かいあう辺が平行であることのみや、平行四辺形とは異なる図形の性質を答えているものがあり、反応率は、49.9%である。また、無解答率が12.1%あることから、平行四辺形の定義及び性質を的確に説明することに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
24	示された情報を基に筋道を立てて考え、図形の面積の関係を判断する	49.8%	51.2%

【指導のポイント】

◎ 図形の約束や性質を用いて事象を的確に判断したり考察したりできるようにする

- ・ 日常の事象を図形の性質を関連付けて捉えたり説明したりする指導の充実
- ・ 図形の知識及び性質を活用して事象を判断する指導の充実

3年: 三角形と四角形
○図形の弁別の理由

➡

4年: 垂直平行と四角形
○作図ができる理由

➡

5年: 合同な図形
○合同な図形である理由

視点2 計算の意味やきまりの理解及び、四則混合の計算を確実にする学習の充実

問題 1(4) $25+5\times 8$

参考 全国学力・学習状況調査の結果
(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
19	$6+0.5\times 2$	65.0%	68.9%
20	$3+2\times 4$	68.2%	70.9%
21	$80-30\div 5$	62.7%	66.8%
22	$50+100\times 2$	62.7%	65.9%
26	$100-20\times 4$	79.5%	80.9%

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 69.5% [期待正答率 81.0%]
※期待正答率との差 ▼10.5ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、「240」と解答(左から順に計算している解答)があり、反応率は25.1%である。計算のきまりを使って四則混合の計算をすることに課題がある。

【指導のポイント】

- ◎ 計算の順序についてのきまりに従って、計算する意味を理解できるようにする
 - ・ どの部分から計算するかによって、計算結果が異なることを理解できるようにする
 - ・ 四則の混合した様々な計算をする機会を設け、繰り返し学習する場面の充実

4年: 式と計算
○計算のきまり

5年: 式と計算
○式の表し方と読み方

6年: 文字と式
○文字を使った式

視点3 資料を分類整理したり、表やグラフを的確に読んだりする学習の充実

問題 8

記録を下の表にまとめます。下の表のアにあてはまる数を書きましょう。

借りた本調べ

出所番号	物語	伝記
1	○	×
2	×	○
3	○	×
4	○	○
5	×	○
6	○	○
7	×	×
8	○	×
9	×	○
10	○	×

○・・・借りた ×・・・借りなかった

借りた本調べ (人)

		伝記	
		○	×
物語	○		
	×	ア	

○・・・借りた ×・・・借りなかった

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 54.3% [期待正答率 69.0%]
※期待正答率との差 ▼14.7ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、一つの観点から資料を分類整理して、物語を借りていない人数「4」を答えたり、伝記を借りている人数「5」を答えたりしているものがあり、それらの反応率の合計は24.1%である。二つの観点から資料を分類整理することに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
21	資料を二つの観点から分類整理し、表を用いて表す	64.8%	68.8%

【指導のポイント】

- ◎ 資料を二つの観点から分類整理できるようにする
 - ・ 集めた資料や提示された資料を、二つの観点から分類整理したり、落ちや重なりがないように考えたりする指導の充実
 - ・ 表を的確に読んだり、表からわかることを説明したりする指導の充実

3年: 表とグラフ
○資料の整理と読み

4年: 調べ方と整理の仕方
○二次元表への整理と読み

6年: 資料(記録)の整理
○ちらばりの整理と読み

3 中学校国語

- 教科全体では、期待正答率 76.7%に対して平均正答率 67.4%であり、9.3ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」では期待正答率を 9.7ポイント下回り、「活用」では期待正答率を 8.5ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」及び「言語についての知識・理解・技能」のすべてにおいて、期待正答率をそれぞれ 7.6ポイント、7.2ポイント、11.0ポイント、8.2ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「選択式」、「短答式」、「記述式」のすべてにおいて、期待正答率をそれぞれ 10.8ポイント、6.1ポイント、12.7ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、「書くこと」では、期待正答率を 7.3ポイント上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、期待正答率をそれぞれ 7.6ポイント、13.4ポイント、8.2ポイント下回っている。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

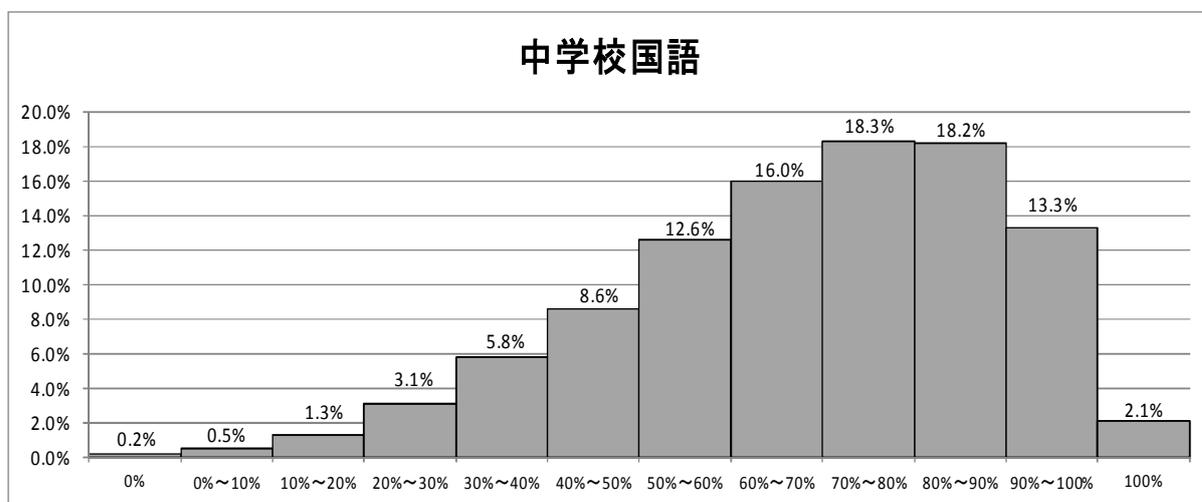
	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	76.7	79.6	69.5	80.0	69.0	71.4	80.8	76.8	85.1	59.8
平均正答率	67.4	69.9	61.0	72.4	61.8	60.4	72.6	66.0	79.0	47.1
差	-9.3	-9.7	-8.5	-7.6	-7.2	-11.0	-8.2	-10.8	-6.1	-12.7

■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	80.0	47.0	74.5	80.8
平均正答率	72.4	54.3	61.1	72.6
差	-7.6	7.3	-13.4	-8.2

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（％）



■ 中学校国語 問題内容と類型番号（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	出題のねらい	正答率	期待 正答率	類型番号(選択肢番号)別出現率						
							1	2	3	4	類型外誤答	無解答	
1	1	—		話を分かりやすく伝えるために、話の構成を工夫することができる。	70.5	79.0	70.5	16.3	10.2	2.0	0.1	0.9	
2					74.3	81.0	12.2	5.5	6.9	74.3	0.1	1.0	
3	2	—	1	小学校で学習した漢字を書くことができる。	81.1	84.0	81.1	1.5	5.4		5.4	6.5	
4			2		83.0	88.0	83.0	3.9	3.7		3.0	6.3	
5			3		64.7	67.0	64.7				14.4	20.9	
6		1	二		1	94.6	93.0	94.6	2.1	1.2		0.3	1.9
7					2	96.5	89.0	96.5	0.1	2.0		0.3	1.2
8		3				94.0	95.0	94.0				4.1	1.9
9		三				47.5	61.0	47.5	15.8	14.3	3.1	12.8	6.5
10		四	1		1	54.6	72.0	54.6				41.8	3.6
11					2	63.2	93.0	63.2				32.7	4.1
12		3	—			登場人物の心情をとらえることができる。	88.3	85.0	6.7	88.3	2.6	1.3	0.0
13	二			情景描写に注意して読み、表現の特徴をとらえることができる。		66.2	77.0	7.7	2.2	66.2	22.7	0.0	1.2
14	1		三	1	47.3	66.0	20.3	47.3	23.4	7.3	0.1	1.6	
15				2	表現技法の効果を理解し、登場人物の様子をとらえて書くことができる。	22.6	64.0	22.6	0.3			51.2	25.9
16	4		—		文章の展開に即して内容をとらえることができる。	75.3	76.0	75.3	4.5	8.4	8.8	0.1	2.9
17		二			段落相互の関係を理解し、文章の展開をとらえることができる。	56.3	72.0	15.4	13.8	56.3	10.9	0.0	3.5
18		三			文章に表れているものの方や考え方をとらえることができる。	49.0	62.0	11.3	21.5	14.5	49.0	0.0	3.7
19		四			文章の内容を正確にとらえ、提示された形式に合わせて適切に書くことができる。	64.0	67.0	64.0	0.4			22.2	13.4
20	5	—		資料の内容をとらえて、適切な見出しをつけることができる。	67.3	93.0	67.3				30.1	2.7	
21				二	伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。	54.3	47.0	54.3	0.7	12.2	9.8	15.9	7.2

■ 中学校国語 指導改善のポイント

視点1 必要な情報を集め、整理して書く学習の充実

問題 5-1

① **A**

- ・わかりやすく、親しみやすいので、初めてかまきを見る人でも楽しめるから。
- ・200年の伝統をもち、町の人が協力し合い、全員で取り組む行事だから。

② **B**

演目「人情たぬきの思返し」
(特徴)

- ・みなと町に古くから伝わる民謡をもとにした話である。
- ・こっけいなしぐさやしれを交えたせりふなど、笑えるシーンが多い。

③ **C**

- ・近隣の市町村の学校や図書館、公民館などにポスターをばってもらう。
- ・「農民かぶき」の紹介動画を作成し、インターネットで公開する。

AからCに当てはまる言葉を、次の1から4までの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 「農民かぶき」の歴史
- 「農民かぶき」の宣伝方法
- 具体的には、何を演じるか
- なぜ「農民かぶき」か

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 67.3% [期待正答率 93.0%]
※期待正答率との差 ▼25.7ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、Aを1と答えたもの、Bを1と答えたもので、反応率は合わせて15%であった。情報の中の一部の言葉から判断して解答したことが誤答の原因と考えられる。文章や資料を正確に読み取り、共通する内容を把握するなどして情報を分類したり整理したりすることに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
26	集めた材料を分類するなどして整理する	91.7%	92.6%

【指導のポイント】

◎ 目的や必要に応じて大切な情報を選択し、整理することができるようにする

- ・ 文章や資料を正確に読み取り、情報を比較して整理する指導の充実
- ・ 読み取った事柄を箇条書きで書くなど、整理して書く指導の充実

(小)3・4年: 中心となる語や文、段落相互の関係

(小)5・6年: 文章内容的な把握

1年: 必要に応じた要約や要旨の把握

視点2 段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えて読む学習の充実

問題 4二

この文章の段落相互の関係について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

(問題の概要)

4 段落は、7段落で提示した内容について具体例を挙げて補強している。

3 7段落は、6段落での説明を補強するために、新たな事実を挙げています。

2 6段落は、5段落で説明した内容から新たに導かれる疑問を述べています。

1 5段落は、4段落で取り上げた仮説に付して、筆者が反論を試みている。

【要因分析】

- 県全体正答率 56.3% [期待正答率 72.0%]
- ※期待正答率との差 ▼15.7ポイント
- 誤答である1の反応率が15.4%、2が13.8%、4が10.9%であった。各段落の内容を把握することと、隣接する段落との関係をとらえることができていない。段落の内容を正しく読み取り、段落相互の関係を踏まえて各段落の役割を捉えることに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
25	段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉える	71.1%	71.7%

【指導のポイント】

◎ 段落相互の関係を捉え、論理の展開の仕方を理解することができるようにする

- 指示語や接続語などに注意して読む指導の充実
- 段落の内容を要約して段落相互の関係を捉える指導の充実

(小)3・4年: 中心となる語や文、段落相互の関係

(小)5・6年: 文章内容の確かな把握

1年: 必要に応じた要約や要旨の把握

視点3 目的や必要に応じて内容を捉えて読む学習の充実

問題 4三

この文章の「メジロ」の名付け方と同じ名付け方をしているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

(問題の概要)

4 ハリシボという名前は、体産体針のよう鋭いトゲを無数に持っていることから名付けられた。

3 アライという名前は、細長い舌をアリの巣の中に入れて、アリの捕食するところから名付けられた。

2 スズシという名前は、自の羽をすずす出す音が鈴の音色に似ていることから名付けられた。

1 ヤバルクナという名前は、沖縄県の山地方にすむクナ(水鶏)であることから名付けられた。

【要因分析】

- 県全体正答率 49.0% [期待正答率 62.0%]
- ※期待正答率との差 ▼13.0ポイント
- 誤答である1の反応率が11.3%、2が21.5%、3が14.5%であった。「メジロ」の名付け方が体の外見的特徴に由来していることを正しく読み取れていない。説明的な文章の中で説明されている事柄を正確に読み取り、個々の内容を比較したり関係付けたりしながら読むことに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
25	文章の展開に即して内容を捉える	75.2%	75.6%

【指導のポイント】

◎ 目的や必要に応じて内容を的確に捉えて読むことができるようにする

- 書かれている事柄の共通点や相違点をまとめながら読む指導の充実
- 複数の本や情報を併せて読む指導の充実

(小)3・4年: 中心となる語や文、事実と意見との関係

(小)5・6年: 文章内容の確かな把握

1年: 中心的な部分と付加的な部分

4 中学校数学

- 教科全体では、期待正答率 58.5%に対して 54.6%であり、3.9ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、「基礎」では期待正答率を 4.5ポイント下回り、「活用」では期待正答率を 2.5ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、「数学的な見方や考え方」、「技能」、「知識・理解」のすべてにおいてそれぞれ 3.3ポイント、4.2ポイント、4.1ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、「記述式」では、期待正答率を 1.9ポイント上回っているが、「選択式」及び「短答式」では、期待正答率をそれぞれ 2.4ポイント、6.8ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、全領域で期待正答率を下回っており、「数と式」及び「関数」領域では、それぞれ 5.7ポイント、5.2ポイント下回っている。
- 正答率分布を見ると、正答率が 30～40%と 60～70%の度数における、生徒の相対度数は、それぞれ 16.0%、18.6%となっている。正答率の分布にやや二極化の傾向が見られる。

■ 教科全体と「基礎」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	基礎	活用	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	58.5	64.4	41.8	39.2	74.8	58.4	58.4	64.1	38.3
平均正答率	54.6	59.9	39.3	35.9	70.6	54.3	56.0	57.3	40.2
差	-3.9	-4.5	-2.5	-3.3	-4.2	-4.1	-2.4	-6.8	1.9

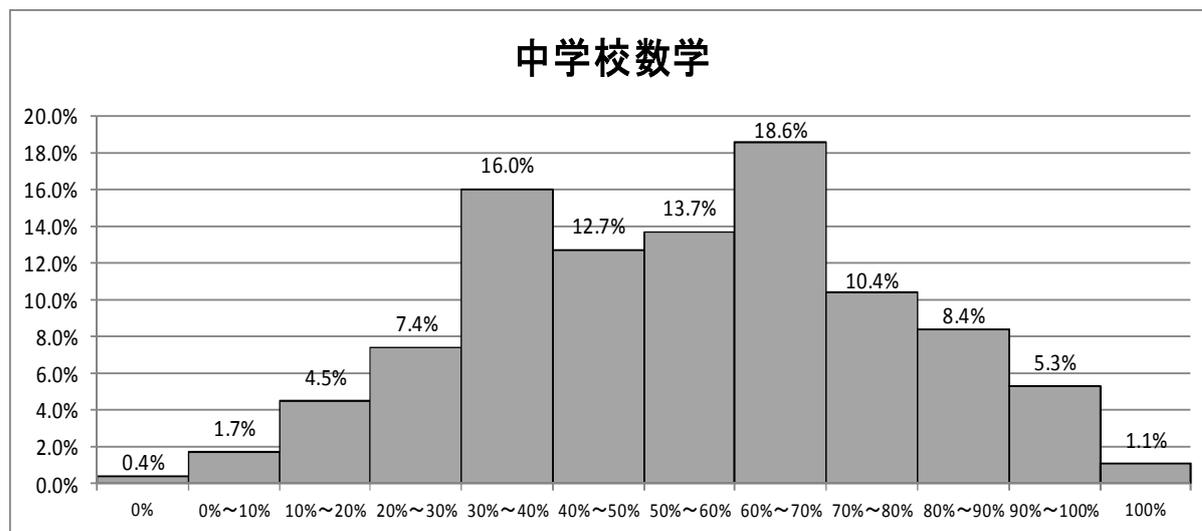
※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	数と式	図形	関数	資料の活用
期待正答率	65.8	61.6	57.2	42.3
平均正答率	60.1	59.6	52.0	40.8
差	-5.7	-2.0	-5.2	-1.5

※網掛け部分は、期待正答率を上回っているもの

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合 (%)



■ 中学校数学 問題内容と類型番号（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	出題のねらい	正答率	期待 正答率	類型番号(選択肢番号)別出現率						
						1	2	3	4	類型外誤答	無解答	
1	1	(1)	絶対値の意味を理解している。	74.0	77.0	74.0					18.8	7.2
2		(2)	かっこを含む正負の数の計算ができる。	85.4	89.0	85.4	5.8				7.2	1.6
3	2	(1)	同類項をまとめる計算ができる。	85.6	85.0	85.6	0.8				11.1	2.5
4		(2)	数量の関係を文字式で表現することができる。	76.0	80.0	69.5	6.5	0.0			16.1	7.9
5	3	(1)	等式の性質と移項の関係を理解している。	66.7	70.0	14.3	66.7	13.9	3.6	0.0	0.0	1.4
6		(2)	分数を含む一次方程式を解くことができる。	42.9	60.0	42.9	4.7	14.3			26.8	11.3
7		(3)	一次方程式をつかって問題を解決するために、数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目できる。	20.0	38.0	20.0	1.2	11.1			40.4	27.2
8	4	(1)	文章で示された図形の性質や条件を記号を用いて表すことができる。	78.7	70.0	6.1	78.7	8.7	5.3	0.0	0.0	1.2
9		(2)	角の二等分線の作図の手順を理解している。	80.2	86.0	80.2					19.0	0.7
10		(3)	三角形を対称移動させた三角形を選ぶことができる。	80.7	87.0	5.1	7.3	5.3	80.7	0.0	0.0	1.7
11	5		角錐の体積を、底面が合同で高さが等しい角柱の体積との関係で理解している。	42.7	40.0	11.2	30.5	14.5	42.7	0.0	0.0	1.0
12	6	(1)	座標平面上にある点の位置を、2つの数の組で表すことができる。	77.2	80.0	77.2	0.3	4.4	2.2	11.2	4.7	
13		(2)	具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になるものを選ぶことができる。	47.4	45.0	10.5	23.3	47.4	17.3	0.2	1.3	
14	7	(1)	比例の式とグラフの関係を理解している。	41.7	56.0	14.5	17.4	25.1	41.7	0.1	1.2	
15		(2)	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している。	46.2	47.0	46.2	22.6	16.9	11.9	0.0	2.3	
16	8	(1)	最頻値の意味を理解し、ヒストグラムから最頻値を読み取ることができる。	16.9	30.0	16.9	22.2	8.2		36.6	16.2	
17		(2)	中央値の意味を理解し、ヒストグラムから中央値が含まれる階級を判断することができる。	56.4	55.0	4.2	27.6	56.4	10.0	0.0	1.8	
18	9	(1)	並べた碁石全部の個数を求める式から、その式に対応する図を表し、その考え方を説明することができる。	30.4	27.0	13.5	0.3	16.6		37.7	31.9	
19		(2)	正方形の紙を折ってつくった角錐の体積を求めることができる。	15.8	25.0	15.8				48.3	35.9	
20	10	(1)	板の重さから並べた板の枚数を求め、その枚数の板が倒れるまでにかかる時間を表から読み取ることができる。	56.4	55.0	56.4				25.1	18.5	
21		(2)	碁石の求め方を基に、並べた碁石の数とすべての板が倒れるまでにかかる時間について、2つの数量の間の関係を説明することができる。	43.3	60.0	24.7	18.6			10.9	45.8	
22		(1)	与えられた表や問題場面から、平均値の意味していることを読み取ることができる。	43.1	56.0	7.6	30.6	12.4	43.1	0.0	6.2	
23	11		与えられたヒストグラムの特徴をもとに、平均値の年齢層に人気の商品がたくさん売れると考えることは正しいとはいえない理由を、数学的な表現を用いて説明することができる。	47.0	28.0	32.9	14.1			17.2	35.8	
		(2)										

■ 中学校数学 指導改善のポイント

視点1 表、式、グラフを相互に関連付けながら表現したり考察したりする活動の充実

問題 7(1)
 $y = -2x$ のグラフを選びなさい。

【要因分析】

- 県全体正答率 41.7% [期待正答率 56.0%]
※期待正答率との差 ▼14.3ポイント
- 誤答の割合は、次のとおりである。
ア・・・14.5% イ・・・17.4% ウ・・・25.1%
比例定数である「-2」が表す意味を、グラフをもとに表現することができていなかったり、誤って理解したりしている。表、式、グラフを相互に関連付けて表現することに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
25	比例の表からグラフを選ぶ	51.6%	52.5%

【指導のポイント】

◎ 比例の表とグラフの特徴について、それらを関連付けて理解することができるようにする

- 表から比例定数を読み取り、その符号や絶対値によって直線のグラフの傾き具合を判断する活動の充実
- 比例定数の意味することから式、表、グラフをもとに説明し伝え合う活動の充実

(小)5年: 簡単な比例の関係
○表

(小)6年: 比例と反比例
○表、式、グラフ

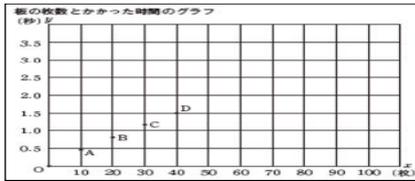
1年: 比例と反比例
○比例の意味

2年: 一次関数
○表、式、グラフ

視点2 実際のデータを用いて変化の様子を捉えたり、数学的な表現を用いて説明したりする活動の充実

問題 10 (2)

板を100枚並べたときの倒れるまでにかかる時間をグラフを用いて求めるために、点Aから点Dまでのすべての点と原点が一直線上にあると考えているのは、どの数量の間に、どのような関係があるか考えているから書きなさい。



【要因分析】

- ・ 県全体正答率 43.3% [期待正答率 60.0%]
※期待正答率との差 ▼16.7ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、ともなう変わる2つの数量を的確に捉えていなかったり、その関数関係について、「比例」や「一次関数」という表現を用いて説明することができていなかったりしており、その反応率は10.9%であった。また、無解答率は、45.8%であった。日常的な事象を理想化・単純化して数学的な表現をもとに説明することに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
26	ウェーブする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	58.4%	62.3%

【指導のポイント】

- ◎ 事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴について分析したりすることができるようにする
 - ・ 数量や図形に着目して見出した事象の特徴を、数学的な表現を用いて的確に説明する活動の充実
 - ・ 日常的な事象の問題を数学的に考察することのよさを実感できるような指導の充実

(小)5年:数量の関係の見方や調べ方
○式で表された数量関係

1年:比例と反比例
○関数関係の意味

2年:一次関数
○事象と一次関数

視点3 図や言葉等を使った表現によって数量関係を的確に捉え、いろいろな表現様式を用いながら段階的に数式化していく学習活動の充実

問題 3 (3)

問題と考え方を読んで下の空らんにあてはまる言葉を答えなさい。

問題

ケースに入ったカード全部を何人かの生徒に配るのに、1人に5枚ずつ配ると7枚余ります。また、1人に7枚ずつ配ると5枚たりません。

生徒の人数を求めるために、生徒の人数をx人として、方程式をつくりなさい。

考え方

方程式をつくるために、xを使って、上の問題の数量のうち、
 を2通りの式で表すと、
 $5x+7$ と $7x-5$ になります。

【要因分析】

- ・ 県全体正答率 20.0% [期待正答率 38.0%]
※期待正答率との差 ▼18.0ポイント
- ・ 典型的な誤答としては、「カード」とだけ書いているように、数量を表現するために必要な「枚数」といった言葉が不足しているもの、あるいは「生徒の人数」のように誤った数量の記述があった。それらの反応率は、合わせると52.7%であり、無解答率は、27.2%であった。問題の中にある、いくつかの数量関係を的確に捉えたり、それを等式に表したりすることに課題がある。

参考 全国学力・学習状況調査の結果(類似問題)

年度	問題	本県正答率	全国正答率
21	一元一次方程式をつくるために、着目する数量を答える	32.2%	34.9%

【指導のポイント】

- ◎ 一次方程式をつくって問題を解決するために、数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目することができるようにする
 - ・ 解決に必要な数量関係を、図や言葉を用いながら段階的に数式化できるような指導の工夫
 - ・ つくった方程式を読み取ったり着目する数量を変えて式をつくったりする活動の充実

1年:文字を用いた式
○文字を用いた式に表すこと

1年:一元一次方程式
○方程式を解くことと活用すること

2年:連立方程式
○事象と一次関数

